

## 評価結果一覧

### 1 作品収集・保存事業の評価 【評点4】 ＜過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館＞

#### (1) 優れた写真・映像作品の計画的・効果的な収集 【評点4】

##### ＜評価の理由＞

- 収集の基本方針を定め、さらに収集の進展と時代の変遷に伴い、収集の新指針を定めている点を高く評価する。
- 限られた予算の中で、購入と寄贈によって質の高い作品を多く収集している。
- 個展を開いた作家の作品を収蔵するのは、個展の意義を裏付けることにもなり、収集の良い方法である。
- 明確な基準と体系性に基づいて、歴史的に意味のある作品、良質の作品を収集している。
- 「新進作家」展及び「川内倫子」展などの展覧会に対応して、購入または寄贈によって、多数の作品収集に成功しており、順調な業務展開といえる。

##### ＜指摘された課題・提言等＞

- 「重点作家が日本人だけ。収集に西洋人作品は含まれているが、アジア諸国の作品はない」点は、昨年と大きく変わっていない。今後アジアの作家を充実してほしい。
- プリントスタディールームの有効活用について工夫してほしい。

#### (2) 的確な作品管理 【評点4】

##### ＜評価の理由＞

- 写真作品の特質をよく把握し、劣化を防ぐための環境測定、整備を実施しており、作品保存のための資材もよく吟味されている。
- 作品の展示に際し、写真技法ごとの最大年間累積照度を設定・管理を実践していることを高く評価する。
- 作品の管理条件を整備し、修復を適切に行っている。
- 年度目標の「発信、写美から世界へ」に基づき、海外での展覧会、作品貸出など、作品公開の機会を拡大したことは特筆に値する。

##### ＜指摘された課題・提言等＞

- 特になし

### (3) 写真・映像に関する幅広い調査・研究 【評点5】

#### 《評価の理由》

- 各大学非常勤講師、各美術館の購入委員などの活動が多いことを評価する。
- 海外展図録の執筆や講演会、トーク等も実施し、海外の賞等の審査員を務める学芸員もおり、国際的にも写真・映像に関する幅広い調査・研究を行っている。
- 調査・研究の成果は何よりも展覧会カタログの論文等に反映させるべきであり、また学会発表、講演会、評論など、さまざまな形で外部の媒体にも公表すべきである。この点に関しては現状で一定の評価を与えられるが、さらなる努力を期待したい。
- 展覧会カタログの質的レベルをさらに上げて、世界に発信できる（世界で引用される）文献としての力をつけてほしい。

#### 《指摘された課題・提言等》

- 近い将来研究紀要をさらに充実させ、現場性の高い写真・映像芸術論として結晶できるよう方向性を見定めてほしい。
- 商業写真については、歴史的なものになったものに限っては、今後調査・研究の対象にすることを検討してもよいのではないか。

## 2 事業展開の評価 【評点5】

### ＜質の高い写真・映像文化と出会う美術館＞

#### (1) 来館者数の目標達成と集客増 【評点5】

##### 《評価の理由》

- 経営目標の年間観覧者数 38 万人を上回る 407,382 人の観覧者数を数え、目標達成と言っている。
- 来館者は多すぎると鑑賞の利便性を損なううえ、動員を追求しすぎると展覧会の質の低下を招きかねないので、今くらいでちょうどいい。
- 来館者はあくまでも館活動の全体を計るバロメーターのひとつにすぎないとはいえ、前年度比で来館者の量的低下は憂慮要因のひとつである。

##### 《指摘された課題・提言等》

- 中長期的な展望を考えると、若い世代の観客層の新たな掘り起こしという課題もある。

## (2) 質的な満足を得られる展覧会の提供 【評点5】

### 《評価の理由》

- 写真専門の美術館である以上、質の高い写真展を開催するのは当然であるとはいえ、毎年のように意欲的で多様な展覧会を提供していることは評価に値する。
- 歴史性と現代性のバランスも考えられている。願わくば、グローバルでクロス・オーバーな現在にふさわしい、他の美術メディアとの関係性を問う、さらに野心的な企画展を見てみたい。
- 気鋭を検証する「川内倫子」展、素顔を明らかにする「操上和美」展、技法を追求した「自然の鉛筆」展など、多彩な切り口で豊かな内容の自主企画の展覧会を多く実現している。
- 映像祭は毎回観ているが、今年は非常に趣旨が明快であると感じた。
- 「北井一夫 いくつか見た風景」展が回顧展ということもあって、作家の内面に思いを馳せることができた。また「夜明けまえ」展は第四弾ということで足跡が感じられ、構成もわかりやすく満足できた。
- 特に印象的だったのは「アーウィン・ブルーメンフェルド」展と「川内倫子」展であった。前者は日本においては初めてブルーメンフェルドの全貌を通観する機会を提供するものと評価できる。後者は不思議な魅力を発信する新世代アーティスト代表として、改めてその理由を考えさせられた。

### 《指摘された課題・提言等》

特になし

## (3) 良質な映画の誘致と上映 【評点4】

### 《評価の理由》

- 昨年以前より「ここでなくては観られない」感のある作品に統一されている印象を受ける。
- 24年度はいずれも良心的な美術館にふさわしい映画であり、「アート&ヒューマン」のコンセプトにも合致している。
- 普通の商業館ではなかなか観られない興味深い作品を上映し、美術館としての特徴をきちんと出している。
- 操上和美展の際、「The Momento 写真家の欲望」を上映したように、写真展とリンクする映画上映を目指してほしい。

### 《指摘された課題・提言等》

- 特になし

### 3 教育・普及事業の評価

【評点4】

#### ＜写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館＞

##### (1) 対象者に応じて多様なプログラムの提供

【評点4】

###### ＜評価の理由＞

- デジタル時代に移行することにより、暗室で現像する体験などができるアナログの技法のワークショップなどは、単なる体験を超え、歴史を体で検証する貴重な場になる。
- ワークショップ入門編から専門性の高いものまで、さまざまなワークショップを行い、実績を積み重ねている。
- ワークショップも含め、教育普及活動に力を入れていることは評価できる。
- 年間で50回に及ぶスクール・プログラム実績に注目したい。展覧会解説からバックヤード見学まで、多様なプログラムが立案され実施されている。
- 一般向けギャラリートークは、質疑応答も活発で、とても評価できる。

###### ＜指摘された課題・提言等＞

- 特になし

##### (2) 図書・情報の収集と公開の促進

【評点4】

###### ＜評価の理由＞

- 図書館の利用率は来館者の目的の中でも比較的高く、よく機能していることがうかがえる。
- 写真・映像に関する専門図書室として、既にインターネット上で蔵書検索ができ、美術図書館横断検索 ALC へも参加、国立情報学研究所の総合目録データベースにも書誌所在情報の提供を開始しているというだけでも、図書、情報の収集と公開については、中程度より高いレベルにある。
- 図書の収蔵冊数は決して多いとは言えないので、今後とも冊数を増やす努力が必要であろうし、それに見合った収蔵スペースを確保することも望まれる。

###### ＜指摘された課題・提言等＞

- 図書・情報機能は、展覧会業務と切り離されたり、展覧会以外の利用者を念頭に置くものではなく、むしろ観覧の一環や延長のなかに位置するものと考えたい。展覧会を観た後で、図書室で調べ直したりといった、一体的な体験を形成するようサポートできれば、展覧・観覧のクオリティを飛躍的に向上させることができるだろう。

#### 4 広報事業・情報発信の評価 【評点4】 ＜写真・映像文化の拠点として貢献する美術館＞

##### (1) 効果的な広報・宣伝 【評点4】

###### ＜評価の理由＞

- eyes、nya-eyes も興味を惹くようにつくられている。
- プレス向け内覧会も解説が行き届き、充実している。
- 販促事業的なセット券販売促進キャンペーンの実施や鑑賞ガイドの制作・配布、年末年始特別開館、「nya-eyes」を使った来館キャンペーンや恵比寿地域における連携キャンペーンの実施などは、写美らしい攻めの広報として評価できる。
- 効果的な広報・宣伝に対する意識は高く、報道機関への対応や告知物の配布なども適切になされている。
- 記者懇談会、プレス向けギャラリートourの実施などが、広告にとどまらず、写真展記事としても取り上げられることにつながっており、とても評価できる。
- マスコミ等への露出度は依然として高く、努力のあとが推知される。

###### ＜指摘された課題・提言等＞

特になし

##### (2) インターネット等を用いた情報発信の推進 【評点3】

###### ＜評価の理由＞

- HP は整理されてわかりやすかったが、「映像」をうたっている以上、動く部分があってもいいのではないか。HP を閲覧するとき、図柄が踊ったり、音楽が流れたりというのは、別世界に行くような感じがして悪くないと思う。
- HP は見やすく充実している。ツイッターなど比較的新しいメディアもより有効に利用すると効果はなお高まるだろう。
- HP をスマートフォン対応にしたり、公式ツイッターを開設したことは評価できる。
- インターネットによる情報発信は、今後ますます重要になるはずだが、写美のHP は最低限の情報発信というレベルであり、内容についてもデザインについても改善可能の余地があると思われる。
- デジタル発信の技術は急速に進歩しており、つねにその状況をウォッチングする必要がある。
- 館内の若手スタッフを中心に、最新状況をリサーチしたり、対応等を講じたりすることが必要だろう。

**《指摘された課題・提言等》**

- 日本語版と比した英語版の落差が気になるところであり、今後の課題である。
- 外国人入館者が増加している昨今、すべて英語バージョンでも見られるように提言したい。

**5 来館者の視点、企業・団体の参加、ボランティア事業、地域連携の評価  
〈開かれた美術館〉 【評点4】**

**(1) 良質なサービスの企画・提供 【評点4】**

**《評価の理由》**

- 来館者の満足度が総じて高く、特に問題点は感じられない。
- 来館者ニーズに対してサービスを提供するという意識が浸透しており、それは展覧会やイベントのみならず、図書室、カフェ、ショップにいたるまで一貫している。
- ミュージアムショップも広くなり、売上げも2割アップしたことは利用者の増大と共に評価できる。
- ミュージアムショップとカフェの壁を取り払って、空間的配置の改善を行ったことが、来場者の増加と満足につながったことは、喜ばしい。

**《指摘された課題・提言等》**

- 今後全面的な館内改修に向けて、サービスのあり方について知見の整理をしておいてほしい。

**(2) 企業・団体等の参加促進 【評点5】**

**《評価の理由》**

- 支援会員に写真関連、印刷関連等、写美の性格と関連深い企業・団体がベースとしてあるのが心強い。
- 地域の企業とのより密度の高い連携によって掲示の場を増やすことは、貴重なコレクションを持つことの市民への還元にもつながる。
- 支援会員制度で大きな成果をあげていることはもとより、共催ワークショップの開催、インターン制度での専門性のある実質的なマンパワーの獲得、持ち込みの展覧会に対する誘致展という位置づけなど、国内の美術館の中では抜きんでて企業や団体の有効な参加が高いといえる。

- 支援会員の制度が良好に機能していて、美術館の活動に財政面で大いに寄与している。
- 未開拓の分野・領域にもターゲットを拡げて、館の活動の下支えにあたってほしい。

《指摘された課題・提言等》

特になし

(3) ボランティアの参画促進 【評点4】

《評価の理由》

- 希望者も多く、充実しているように見受けられる。
- 24年度は普及事業の拡大に伴い、新規登録者数が20名あり、活動回数、参加者共に前年度より大きな伸びをみせた。
- ボランティアを募り、研修会で育成することによって、スクール・プログラムやワークショップが充実した成果を上げている。
- フィルムカメラからデジタルカメラへの移行が決定的となった今、試行錯誤しながらもボランティアに多くの研修機会を設けているのは評価できる。

《指摘された課題・提言等》

- 一般には展示解説ボランティアのみに光があたるが、実はより広い分野でのボランティア参画がありうる。そこでは作品整理や業務上の調査研究の全般にわたって参画の可能性を探ろうという傾向にあり、その方向で検討してほしい。

(4) 地域との連携強化 【評点4】

《評価の理由》

- 恵比寿ガーデンプレイスなどとの連携はとても良いことと思う。
- 「あ・ら・かるチャー 渋谷・恵比寿・原宿」という広範囲の文化施設の連携を図るとするのは魅力的ではあるが、そう簡単なことではないであろう。それを実施し、写美の存在感を示していくのは大変だが、よくやっていると思う。
- 活動としては、地域との連携には十分に参画している。
- どのような脈絡で地域の構築にかかわっているかを、改めて確認する作業が必要であろう。
- 地域との連携は、強まる方向にあるという感じはあるので、予定される改修のための休館時期も、さまざまな形で存在をアピールする工夫をお願いしたい。

《指摘された課題・提言等》

特になし

6. インフラの改善

【評点4】

《ミッション達成のための必要な基盤の整備》

《評価の理由》

- 平成28年にリニューアル・オープンするための大規模改修が計画されているが、一度済めば次の機会は遠い。これに関わる全ての人が当事者意識を持って、学芸の仕事の施設だけではなく、公共施設のひとつひとつの計画について、慎重かつ大胆な案を練り上げてほしい。
- エレベーターの増設ができるなら、これからより増える高齢者の利便性高めることになり、望ましい。
- 大規模改修を待つ必要があるだろうが、例えば、休憩用の椅子の設置など、部分的かつ小規模な手当は今後も注意深く行ってほしい。

《指摘された課題・提言等》

- 改修工事を控え、インフラ改善については館独自では実現できない部分が多いので、利用者から要望の多いエレベーターの改善や水飲み場の設置、カフェ・ショップの改装、ロビー・ラウンジの整備などを中心に、将来を見据えた要望をしっかりと実現させる必要がある。
- 収蔵庫や展示室の空調、搬出入口の整備も同様に実現させてほしい。